

第7章

熊本職業訓練短期大学校

第1節 熊本職業訓練短期大学校について

1. 短大開校の経緯

熊本職業訓練短期大学校は、昭和54年（1979）4月に当時深刻化する建設業界における技能労働者の不足を背景に、熊本市建築組合熊友会、熊本県建築大工技能士会、熊本市左官協同組合、熊本県管工事業組合連合会等の6つの建築工業専門団体からの強い要望を受け、県と市の協力指導のもと昭和53年（1978）に設置された職業訓練法人熊本市職業訓練センターを運営主体として設立された。開校時は左官科と建築科の2科で各科定員は20名でスタートした。

昭和56年（1981）頃より業界の不況下、求人も少なく就職する学生も極めて少数であったことなどが起因し、定員に達しないまま毎年減少傾向をたどり、一時休校せざるを得ない状況も派生した。

昭和63年（1988）8月に県・市からなる「総合建設科設置推進会議」が設置され労働省へ科の新設を要望し、平成元年（1989）1月に建築仕上げ専攻と建設専攻の2つの専攻コースをもつ総合建設科が認可され定員の充足が図られるようになった。

平成5年（1993）度から現在の居住システム系建築科に移行し、建築関係の団体事業所に就職した従業員を対象に、週2日登校させるかたちで3年制の専門課程および専門短期課程の訓練を展開している。

2. 方針と目的

(1) 教育方針

- ① 建築全般にわたる専門的な知識・技術技能を習熟させると共に技術革新の変化にも対応できる理解力、応用力を身につける基礎教育の徹底を目指す。
- ② 専門的な訓練の他、一般教養、体育、団体行動訓練等を取り入れ、勤勉・協調心・向上心を養成し、心・技・体のバランスのとれた人材の育成を目指す。
- ③ 作業現場、設計、施工管理等の各部門でも職場配置ができる技術スタッフとして必要な各種資格取得のための訓練を展開する。

(2) 工科短期大学校の概要

① 対象者

高卒以上若しくはそれと同等以上の者で、熊本市および近郊の建設業関係の事業所に在職している者（専門課程）

《参考》……現状では、関係団体（熊本建設業協会建築部会、熊本市建築大工技能士会、熊本市建築組合熊友会、熊本県型枠工事業協同組合、熊本市左官協同組合、熊本県鉄筋業組合）323社からの派遣訓練生が大半を占める。

② 訓練期間

3年間（総訓練時間4,200時間）

③ 訓練課程および定員

職業能力開発促進法に準拠した高度職業訓練における専門課程

居住システム系・建築科……1学年30名

〈建築コース、左官コース、型枠コース、鉄筋コース〉

なお、センターの事業として職業能力開発促進法に準拠した普通職業訓練における短期課程、

能力再開発訓練，自立講座等がある。

31科目132講座（平成9年度）

④ 施設

敷地面積：9,831 m²

本館（鉄筋コンクリート2階建）1,093 m²

実習棟（鉄骨鉄筋コンクリート平屋建）1,568 m²

技能向上実習場（鉄骨造平屋建）300 m²

講師室（木造平屋建）19 m²

⑤ 組織

専任指導員：3名

嘱託講師：27名（学科担当14名，実技担当13名）

3. カリキュラム

居住システム系 建築科

① 育成目標

技術革新，高度情報化社会に対応できる近代技術をふまえた建築の全般的知識を習得し，設計並びに施工管理等ができる実践技術者

② 各教科訓練実施内容

図表-1に建築コースの年間，科目別，月別，時間数計画表（1～3年次）を示す。

1年次では，系基礎科目を中心として建築全般にわたる知識や前期において各コース毎に基本的な工具類，機械類の使い方を習得する。後期より施工実習として，コース別課題を通し基本工作法を身につける。

2年次では，系共通科目の中に規矩術が用意され，施工実習においてコース毎設定された課題に取り組みながら各技能を習得する。

3年次では，材料実験や施工実習において技能検定，技能照査に照準を合わせた課題をこなし，技能を磨くように設定されている。

③ カリキュラム体系

図表-2にカリキュラムブロック図を示す。

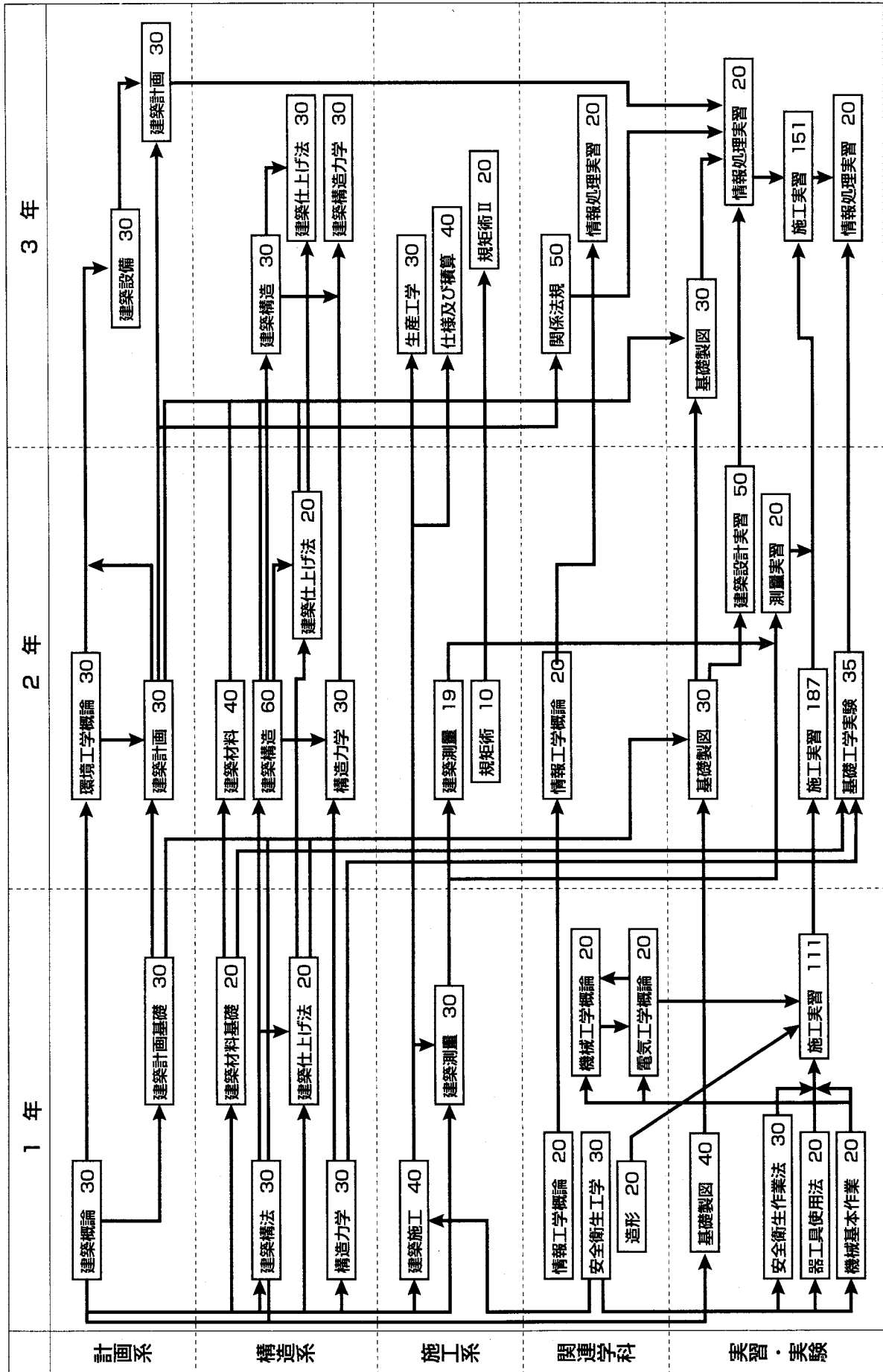
カリキュラムブロック図のうち，計画系，構造系，関連学科については，全コース共通である。

施工系の科目の中では，建築コースでは規矩術Ⅱと建築仕上げ法が，左官コースでは造形Ⅱと建築仕上げ法が，また，型枠コースと鉄筋コースではそれぞれ工作法が必修となり，専門別に分化している。

また，実験・実習の中の施工実習はコース毎に専門的内容となっている。

		居住システム系 建築科 (建築コース)															
学年	科目	期	前期					後期					計				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月		
1年	系基礎	学科	建築概論	6	6	10	6	2									30
			情報工学概論					4	8	8							20
			構造力学					6	8	6	4	6					30
			建築計画基礎								4	6	6	8	6		30
			建築構法	4	8	8	10										30
			建築材料基礎	6	6	8											20
			安全衛生工学	6	6	10	6	2									30
			機械工学概論										6	8	6		20
			電気工学概論					4	8	8							20
			造形			2		8	4								20
	小計	22	26	38	28	26	28	22	8	12	12	16	12		250		
	実技	基礎工学実験															
		基礎製図	6	12	13	13	1	6	9							60	
		安全衛生作業法	4	8	8	10										30	
		器具使用法				15	3	2								20	
		小計	4	8	8											20	
	専攻	学科	建築施工	9	9	14	6	2								40	
			建築測量					6	12	12						30	
			建築仕上げ法					4	8	8						20	
小計			9	9	14	6	12	20	20						90		
実技		施工実習					12	14	17	16	12	12	16	12	111		
小計					12	14	17	16	12	12	16	12		111			
合計			45	63	81	72	54	70	68	24	24	24	32	24	581		
2年	系基礎	学科	情報工学概論		2	8	10									20	
			環境工学概論	6	8	8	8									30	
			構造力学	4	8	8	10									30	
			規矩術								4	4	2			10	
			小計	10	18	24	28				4	4	2			90	
	実技	基礎工学実験					9	14	12						35		
		基礎製図	12	13		5									30		
		小計	12	13		5	9	14	12	4	4	2			65		
	専攻	学科	建築計画	4	6			6	8	6						30	
			建築構造	4	8	8	10	6	8	12	4					60	
			建築材料	6	8	8	10	6	2							40	
			建築測量					6	7	2					4	19	
			建築仕上げ法		2	8	10									20	
	小計	14	24	24	30	24	25	20	4				4	169			
	実技	建築設計実習		5	12	8		3	2	4	4	6	6		50		
		施工実習	9	12	12	19	21	22	22	16	8	16	18	12	187		
		測量実習						6	10	4					20		
		小計	9	17	24	27	21	31	34	24	12	22	24	12	257		
	合計			45	63	72	90	54	70	66	32	16	24	24	16	581	
3年	系基礎	学科	建築設備仕様および積算	4	10	8	8	8	2							40	
			生産工学	4	10	8	8									30	
			関係法規			2	4	8	10	8	6	6	6			50	
			小計	8	20	18	26	20	18	14	8	6	6	6		150	
			実技	基礎製図	6	15	9										30
	情報処理実習	4		10	6										20		
	小計	10		25	15										50		
	専攻	学科	建築計画							4	8	6	6	6		30	
			建築構造	4	10	8	8									30	
			建築構造力学	4	10	8	8									30	
			規矩術Ⅱ				2	4	8	6						20	
			建築仕上げ法	4	10	8	8									30	
	小計	12	30	24	26	4	8	10	8	6	6	6		140			
	実技	建築材料実験			3	12	12	9	4					10	50		
		建築設計実習					8	16	10					6	40		
		施工実習	6	15	12	17	10	18	21	16	12	12	12		151		
		小計	6	15	15	29	30	43	35	16	12	12	12	16	241		
	合計			36	90	72	81	54	69	59	32	24	24	24	16	581	

図表-1 年間、科目別、月別、時間数計画表 (建築コースの例)



図表-2 カリキュラムブロック図

4. 教育訓練の特徴（実技中心に）

(1) 実技（実験・実習）の指導について

地域ニーズを踏まえ、総合建設科から居住システム系建築科に移行する時点で建築コース、型枠コース、鉄筋コース、左官コースの4つのコースが選択できるようになっており、4コース共通の学科、実技をベースとし、これに各専門コース別に80時間の専門学科、300時間の専門実技課題を通し、それぞれより専門的、実践的な技術・技能の習得を図っている。

(2) 教育内容

各コースの実技訓練のスケジュールは図表に示す。

以下に各コース毎の実技訓練計画を掲げる。

① 建築コース（図表-3、図表-4）

1年次の最初の2ヵ月で基本器工具、機械の取り扱いについて学んだ後、仕口・継手の作成により基本工作法を身につけ、和小屋組課題を経て、ジョウゴを作成する。

2年次に片転び、四方転びから、腕木門建築、棒隅屋根建築までを学ぶ。

3年次は平合掌、隅合掌の技能検定課題を演習し、後半は技能照査課題となる入隅屋根を4ヵ月にわたり学ぶ。

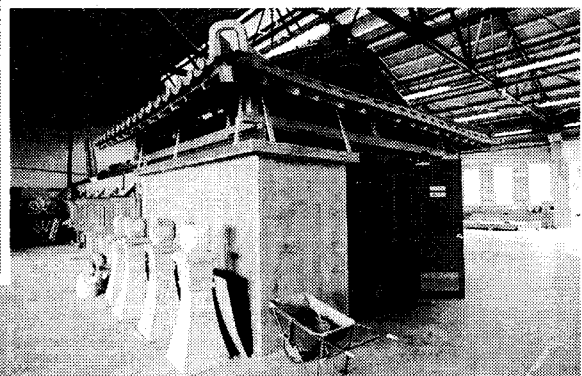
（一例）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考	
1年	⇔ 器工具使用法		⇔ 仕口・継手の製作			⇔ 和小屋組訓練			⇔ 休憩室建築		⇔ ジョウゴ作成			
2年	⇔ 片転び作成		⇔ 四方転び作成（和風住宅・内部造作訓練含）				⇔ 技能検定課題訓練		⇔ 腕木門建築		⇔ 棒隅屋根建築			
3年	⇔ 平合掌及び隅合掌の訓練						⇔ （技能検定1級課題演習含）			⇔ 建築コース：入隅屋根		⇔ 技能照査課題演習		<ul style="list-style-type: none"> ・10月に技能照査実技問題の作成 ・2月実技技能照査

図表-3 実技訓練計画 建築コース



技能照査課題演習風景



和小屋（入母屋）屋根

図表-4 建築コース

② 型枠コース (図表-5, 図表-6)

1年次の最初の2ヵ月で基本器工具、機械の取り扱いについて学んだ後、施工図を作成し、躯体型枠組(階段を含む)を習得する。

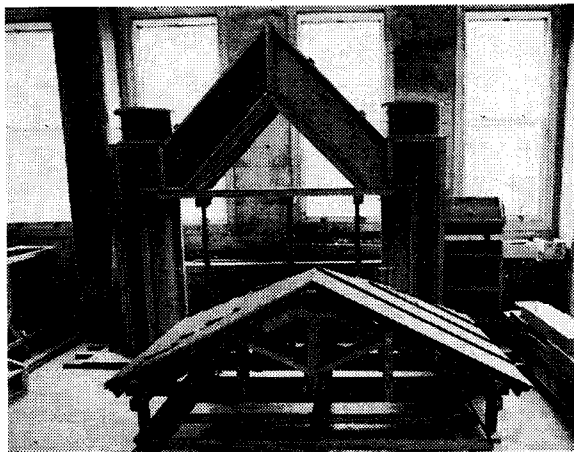
2年次は引き続き躯体型枠組について学び、後半4ヵ月は、技能検定の型枠2級課題について演習する。

3年次は技能検定1級課題の演習、後半4ヵ月は技能照査課題である基礎化粧型枠に取り組む。

(一例)

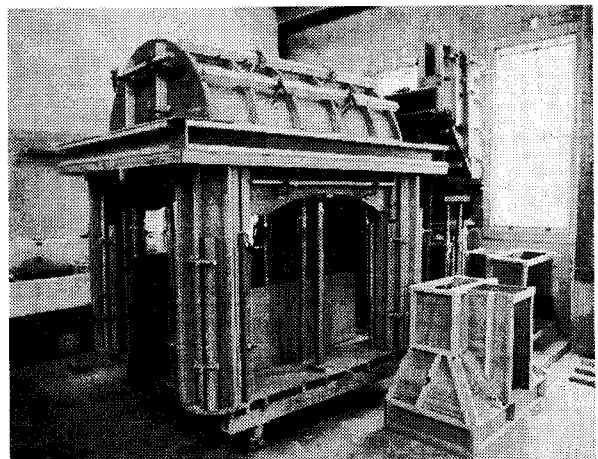
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
1年	← 器工具使用法 →		← (施工図作成含) →			← (階段含) →				← 躯体型枠組 →			
2年	← 躯体型枠組 →		← →			← 技能検定“型枠二級”課題訓練 →				← →			
3年	← (技能検定1級課題演習含) →					← 型枠コース：基礎化粧型枠 →			← 技能照査課題演習 →			<ul style="list-style-type: none"> ・10月に技能照査実技問題の作成 ・2月実技技能照査 	

図表-5 実技訓練計画 型枠コース



躯体型枠組
(手前は建築コースの洋小屋組)

ヴォールト屋根型枠組



図表-6 型枠コース

③ 鉄筋コース (図表-7, 図表-8)

1年次に最初の2ヵ月で基本器工具、機械の取り扱いについて学んだ後、基礎鉄筋加工・組立について学ぶ。

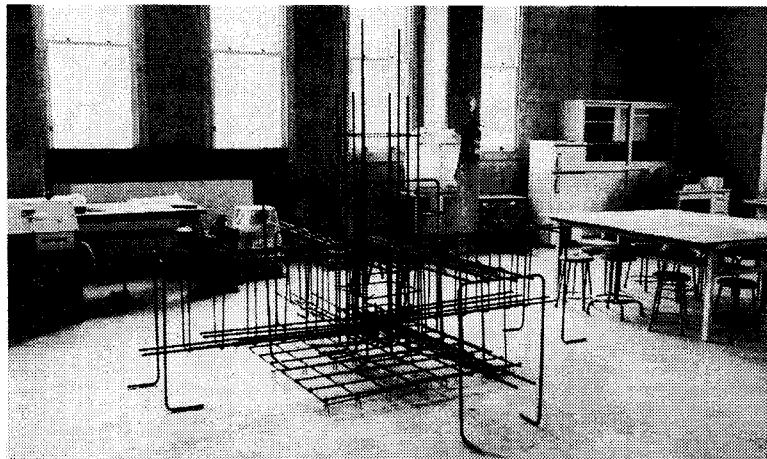
2年次に図面の拾い出し、鉄骨基礎鉄筋配筋を学び、二級技能士課題に取り組む。

3年次に施工図作成を演習し、後半は技能照査課題について学ぶ。

(一例)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
1年	← 器工具使用法 →		← 機械工具使用法 →				← 基礎鉄筋加工・組立 →						
2年	← 図面拾出し →				← 鉄筋基礎配筋組立 →				← 二級技能士課題演習 →				
3年	← 図面拾出し →		← 施工図作成 →						← 技能照査課題演習 →				・10月に技能照査実技問題の作成 ・2月実技技能照査

図表-7 実技訓練計画 鉄筋コース



図表-8 基礎配筋施工 鉄筋コース

④ 左官コース (図表-9, 図表-10)

1年次の最初に基本器工具, 機械の取り扱いについて学んだ後, 下地作り, 塗り付けを学び, 擬木およびなまこ壁の作成を行う。

2年次は, 燈籠製作の後, 技能検定課題について演習する。

3年次は左官材料の調整, 混合について学んだ後, 人造石洗い出し, かき落とし工法等各種左官工法を学び, 後半は技能照査課題である人造石研ぎ出し工法, 混合石膏プラスター塗工法, ジュラク塗工法について演習する。

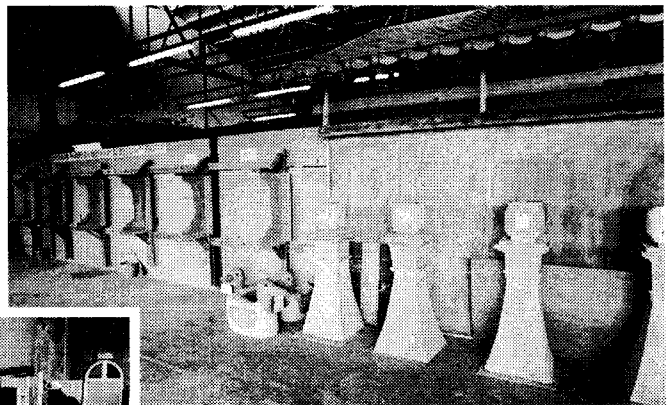
(一例)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考		
1年	← 器工具使用法 →		← 下地作り・塗り付け →					← 擬木の作成・なまこ壁 →							
2年	← 燈籠製作(下地作り) → ・スチールロール型切 ・型の組立及び地下処 ・不陸調整			← 燈籠製作(仕上げ) → ・色モルタルの書き落 とし仕上げ ・台の取付調整			← 検定合 実習 → (墨出し、チリ廻り、カド計り)(中塗り) ・カド計り定規 の張り方練習 ・墨出し・チリ 廻りの練習			← 上塗り → ・塗り付け木 ボテの練習		← 石コウ型抜き → ・仕上げの上塗 りの塗り方			
3年	四月十七日 左官材料の構成及び調査	五月一日 モルタル塗り方法	五月五日 鉄鋼下地の作り方及びテス張り工法	五月五日 人造洗い出し工法	五月五日 人造かき落とし工法	七月四日 着色モルタルの作り方 軽重モルタルの調査	七月四日 塗り付け方法	七月四日 書き落とし方法	九月五日 モルタル刷毛引き方法 モルタルはき掛け工法 モルタル小叩き工法 型枠モルタル打ち込み方法	十月二日 人造石研出方法	十一月七日 墨出しの基本	十一月五日 ブラスター塗り工法 モルタル中込み工法	十二月五日 混合石膏ブラスター塗り工法 目地係取付工法	一月二日 ジュラク塗り工法	・10月に技能照査実 技問題の作成 ・2月実技技能照査

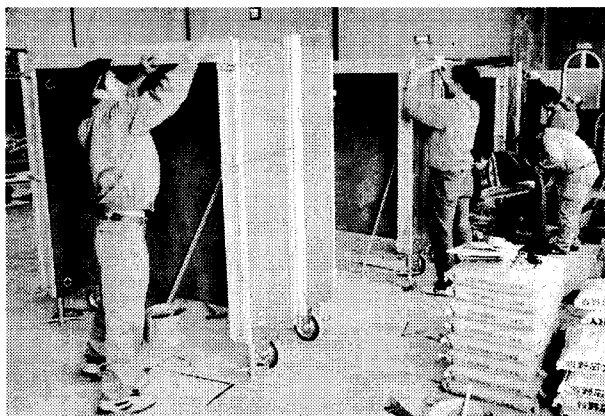
図表-9 実技訓練計画 左官コース



1年次課題実習
なまこ壁



2年次課題実習
燈籠およびモルタル薄塗り工法



3年次
技能照査実技課題

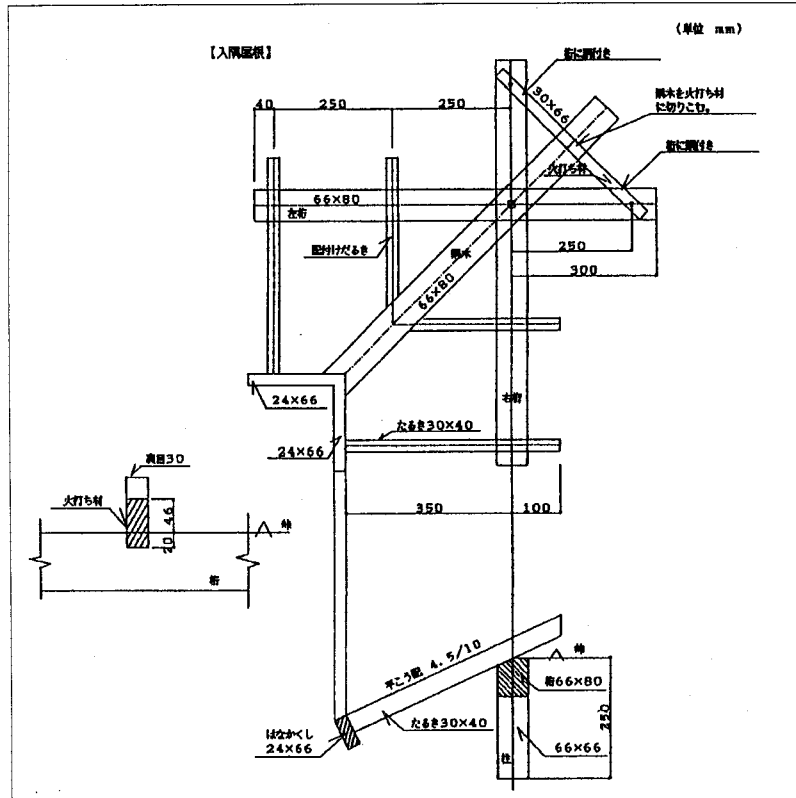
図表-10 左官コース

(2) 実技課題

3年次の10月から2月まで、4ヵ月間にわたる技能照査演習課題は以下の通りである。

① 建築コース

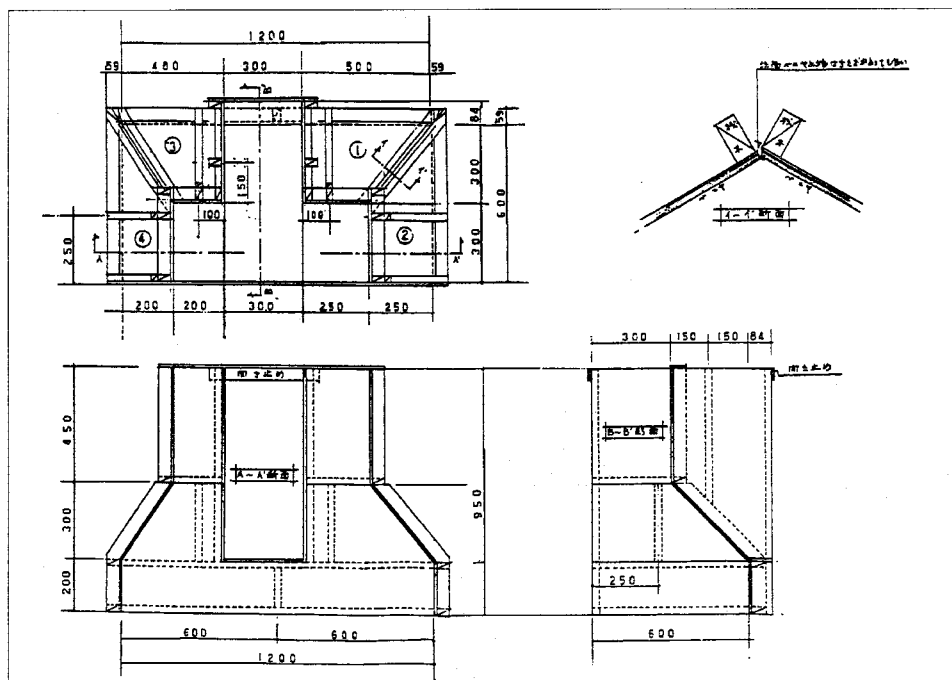
入隅屋根の作成 (図表-11)



図表-11 建築コース実技課題 入隅屋根の作成

② 型枠コース

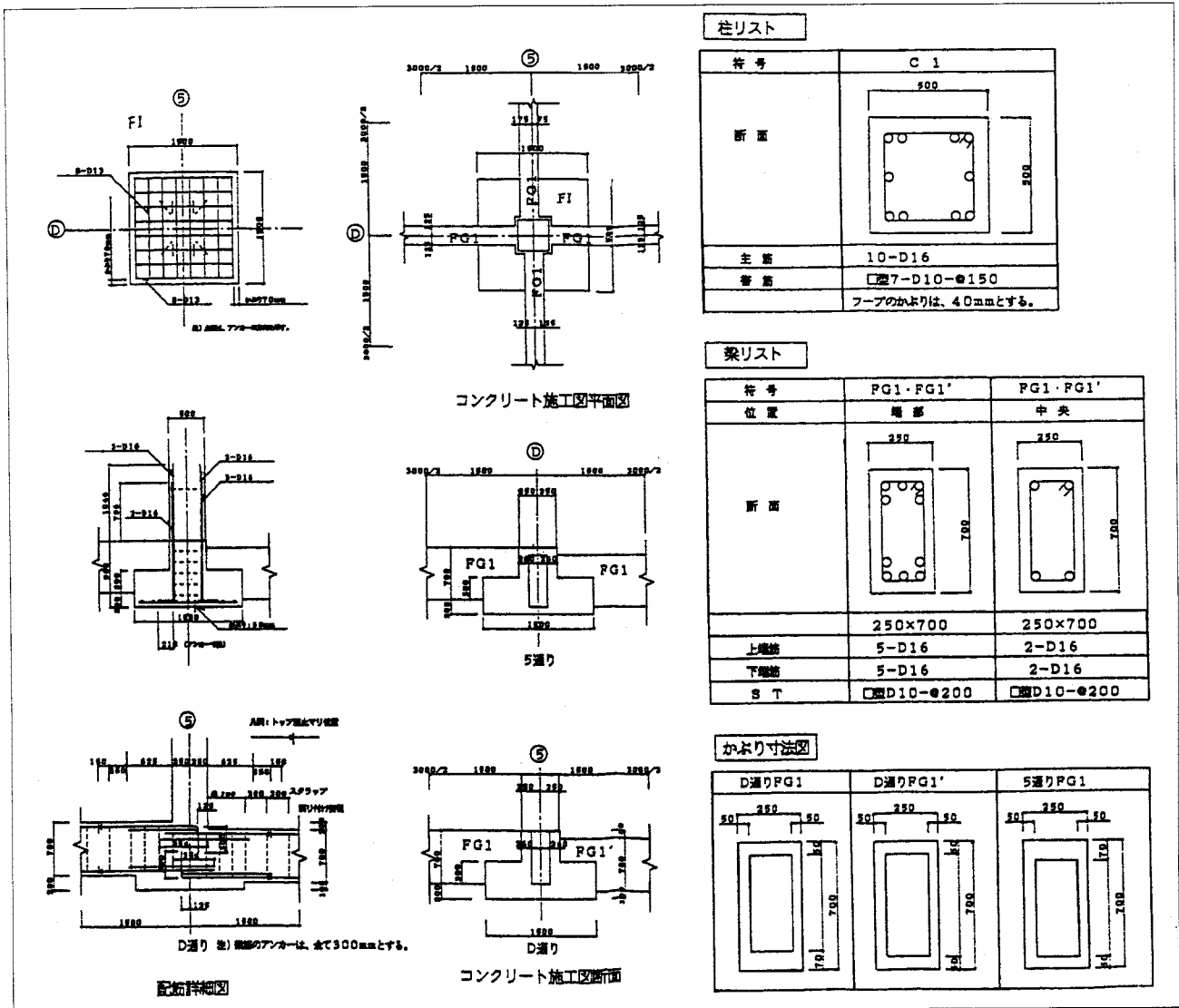
基礎化粧型枠 (図表-12)



図表-12 型枠コース実技課題 基礎化粧型枠

③ 鉄筋コース

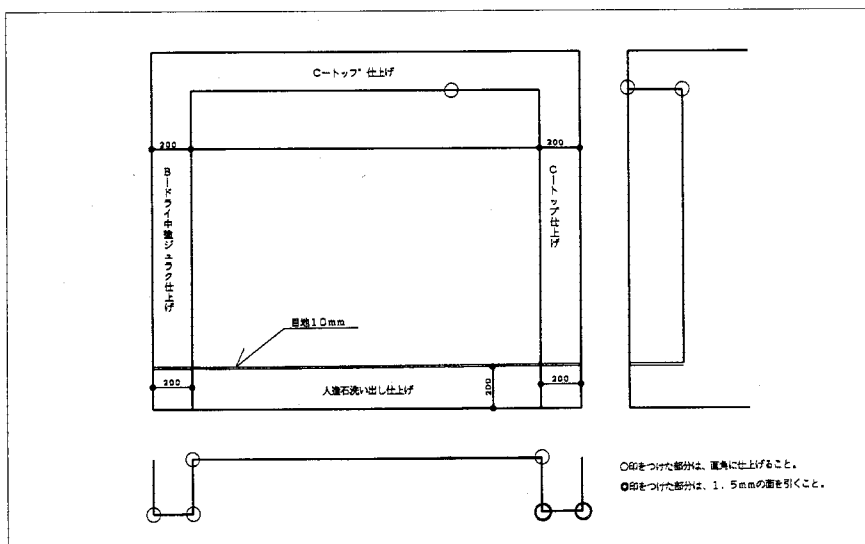
基礎配筋組 (図表-13)



図表-13 鉄筋コース実技課題 基礎配筋組

④ 左官コース

人造石研出し, 混合石膏プラスター塗, ジュラク塗仕上げ (図表-14)



図表-14 左官コース実技課題人造石研出し, 混合石膏プラスター塗, ジュラク塗仕上げ

(3) 評価

各実技課題の評価表、採点基準、配点について図表-15～18に示す。

実施年月日		採点者 氏名	印	居住システム系・建築科（建築コース） 実技採点用紙																																						
番号	氏名	加工組立て										仕上がり程度				作業態度						得点																				
		平地の間寸法	平勾配	桁落ち掛かり	隅木長さ	隅木なげ墨	桁組手	柱との取り合い	たる木位置	隅木仕掛墨	柱の高さ・桁峠の高さ	火打ち長さ	たる木長さ・配付たる木	たる木立水・桁真	たる木上端	鼻かくし向う留	鼻かくし上端留	火打ちと桁との取合	火打ちと隅木との取合	合計	材料の削り方		げんのうのあと	各部材の割れ欠け	ねじれ	合計	整理の悪い者	他人に迷惑をかけた者	道具を破損した者	負傷した者	他人に負傷させた者	合計	作業時間	合計	原価総合計							

1. 使用工具

品名	寸法又は規格	数量	備考
さしがね		1	(メートル尺)
墨つば		1	
墨さし		1	
まきがね		1	(スコヤール)
かんな	中, 仕上げ	各1	
のこぎり		各1	
自由がね	27cm, 30cm	1	
けびき		1	
のみ	12mm 15mm 24mm 30mm 36mm	1	
げんのう	大	1	
	小	1	
あて木		1	
鉛筆・消ゴム		必要数	
かじや		1	
スケール		1	
砥石		1	

2. 採点の方法

採点の方法は減点法とし、減点を決定し、満点150点から減点を差し引いて、当該受験者の得点を決定する。

なお、得点がマイナス点となる場合は、0点として処理する。また組立てられないものも0点として処理する。

3. 採点基準

(採点法による)

採点項目	配点	採点項目	配点
加工組立		作業時間	
仕上がり程度			
作業態度		合計	

4. 項目別採点基準 (減点法による)

作品各部をさしがね、または型板にて測定し、項目別の採点基準に従って採点する。全体的な仕上がりについては、目視により採点する。

1) 加工組立 (減点85点)

採点項目	観点	+1.5mm以内	+3mmをこえ5mm以内	+5mmをこえるもの
平地の間寸法	正確な寸法になっているか	1	2	4
平勾配	〃	1	2	4
桁落ち掛かり	〃	1	2	4

隅木長さ	〃	1	4	8
隅木なげ墨	〃	1	4	8
桁組手	〃	1	3	6
柱との取り合い	〃	1	2	4
たる木位置	〃	1	2	4
隅木仕掛墨	〃	1	4	7
柱の高さ、桁峠までの高さ	〃	1	2	4
火打ち長さ	〃	1	2	4
たる木長さ				
配付ケトルキを含む	〃	1	2	4
たる木立水 桁真	〃	1	2	4
たる木上端	〃	1	2	4
鼻かくし向う留	〃	1	2	4
鼻かくし上端留	〃	1	2	4
火打ちと桁との取り合い	〃	1	2	4
火打ちと隅木との取り合い	〃	1	2	4

2) 仕上がり程度 (減点16点)

着眼点	減点
材料の削り方 (逆目立ちの有無)	0
無いの	2
多少あるが目立たないもの	4
逆目立ちが多く、墨が残っているもの	4
げんのうのあと	0
無いの	2
多少あるが目立たないもの	4
たたき傷の多いもの	4
各部材の割れ、欠け	0
無いの	3
多少あるが目立たないもの	4
割れ、欠けの大きいもの	4
ねじれ	0
無いの	3
多少あるが目立たないもの	4
一見してわかるほど、ねじれの大きいもの	4

3) 作業態度 (減点37点)

採点基準	減点
工具及び材料の整理の著しく悪いもの	5
他人に著しく迷惑をかけたもの	7
本人の不注意により道具を破損したものの	5
本人の不注意により負傷したものの	8
本人の不注意により他人を負傷させたものの	12

4) 作業時間 (減点12点)

14時間以内……………減点0点
 1時間を超えた場合、超過5分につき…………減点1点
 (5分未満は5分とする)

図表-15 建築コースの評価表・採点基準・配点

実施年月日		採点者 氏名		印		居住システム系・建築科 (型枠コース)										実技採点用紙										
番号	氏名	原寸図					合計	加工組立									仕上がり程度			作業態度			合計	原点総合計	得点	
		正面図	展開図	ベニヤ割付け図A	ベニヤ割付け図B	寸法基準点		ベース			梁			合計	ねじれ	たおれ	総合できばえ	合計	整理の悪い者	他人に迷惑をかけた者	道具を破損した者	負傷した者				他人に負傷させた者
								幅寸法	高さ寸法	法下バ高寸法	法上バ高寸法	法上バ幅寸法	梁底幅寸法													

1. 使用工具

品名	寸法又は規格	数量	備考
さしがね		1	
メジャー	2m以上のもの	1	
墨さし		1	
墨つぼ		1	
のこぎり	24cm～30cm	1	両刃, 片刃どちらでもよい
かんな	荒	1	
げんのう		1	型枠ハンマーでもよい
かじや (パール)		1	
下げ振り		1	
くぎ袋		1	
鉛筆		必要数	現寸図作成用
消ゴム		1	現寸図作成用
直定規	1m程度	1	T定規でもよい
水準器	30cm程度	1	
保護帽		1	

2. 採点の方法

採点の方法は減点法とし、減点を決定し、満点150点から減点を差し引いて、当該受験者の得点を決定する。
 なお、得点がマイナス点となる場合は、0点として処理する。また組立てられないものも0点として処理する。

3. 採点基準 (採点法による)

採点項目	配点
現寸図	
加工組立	
仕上がり程度	
作業態度	
作業時間	
合計	

4. 項目別採点基準 (減点法による)

作品各部をさしがね又はスケールにて測定し、項目別の採点基準に従って採点する。全体的な仕上がりについては、目視により採点する。

1) 原寸図 (減点42点)

採点項目	1mm以下	2mm～3mm	3mm以上
正面図	0	2	7
展開図	0	5	20
ベニヤ割付け図(A)	0	1	5
〃 (B)	0	1	5
寸法基準点	0	1	5
合計	0	10	42

2) 仕上がり程度 (減点20点)

着眼点		減点
ねじれ	無いもの	0
	多少あるが目立たないもの	3
	一見してわかるほど、ねじれの大きいもの	5
たおれ	無いもの	0
	一見してわかるほど、たおれの大きいもの	3
	たたき傷の多いもの	5
総合できばえ	欠点が無いもの	0
	多少欠点があるもの	4
	欠点が多いもの	7

3) 作業態度 (減点22点)

採点基準	減点
工具及び材料の整理の著しく悪いもの	2
他人に著しく迷惑をかけたもの	2
本人の不注意により道具を破損したもの	2
本人の不注意により負傷したもの	6
本人の不注意により他人を負傷させたもの	10

4) 作業時間 (減点12点)

13時間以内……………減点0点
 1時間を超えた場合、超過5分につき…………減点1点
 (5分未満は5分とする)

図表-16 型枠コースの評価表・採点基準・配点

居住システム系・建築科（鉄筋コース） 実技採点用紙

実施年月日		採点者 氏名		印													
番号	氏名	施工図・加工絵符		加工組立			仕上がり程度		作業態度			合計	作業時間	合計	原点総合計	得点	
		寸法基準線	鉄筋サイズ	切断寸法	トップ筋余長	ベース筋	柱筋	梁筋	合計	欠点が無いもの	欠点があるが目立たない						決定的な欠点がある

1. 使用工具

品名	数量	備考
折り尺	1	コンベックスルール（コンベック）でもよい
手ハッカー	1	
手袋	1	

2. 採点の方法

採点の方法は減点法とし、減点を決定し、満点150点から減点を差し引いて、当該受験者の得点を決定する。

なお、得点がマイナス点となる場合は、0点として処理する。また組立てられないものも0点として処理する。

3. 採点基準

項目別採点基準

作品各部をさしがね又は定規にて測定し、項目別の採点基準に従って採点する。全体的な仕上がりについては、目視により採点する。

減点法による

採点項目	配点
施工図、加工絵符	
組立	
仕上がり程度	
作業態度	
作業時間	
合計	

イ) 施工図 (減点42点)

	+-1mmまで	+-1mmをこえ +-3mmまで	+-2mmをこえる
寸法基準線	0	2	4

鉄筋サイズ	1本につき		
	+-10mmまで	+-10mmをこえ +-15mmまで	+-15mmをこえる
柱・梁主筋	0	2	4
	+-5mmまで	+-5mmをこえ +-10mmまで	+-10mmをこえる
フープ	0	2	4
スタラップ	0	2	4
	+-10mmまで	+-10mmをこえ +-15mmまで	+-15mmをこえる
切断寸法	0	2	4
	+-30mmまで	+-30mmをこえ +-35mmまで	+-35mmをこえる
トップ筋余長	0	2	4

ロ) 組立 (減点54点)

		+-10mmをこえ +-15mm以内	+-15mmをこえ +-20mm以内	+-20mmをこえるもの
べ ー ス 筋	かぶり厚さ	1	4	7
	間隔	1	3	5
	鉄筋相互のあき	1	3	5
柱 筋	かぶり厚さ	1	4	7
	間隔	1	3	6
	鉄筋相互のあき	1	3	6
柱 筋	かぶり厚さ	1	4	6
	間隔	1	3	6
	鉄筋相互のあき	1	3	6

ハ) 仕上がり程度 (減点10点)

着眼点	減点
欠点が無いもの	0
欠点があるが目立たないもの	2
多少欠点があるが決定的でないもの	3
決定的な欠点があるもの	5

ニ) 作業態度 (減点32点)

採点基準	減点
工具及び材料の整理の著しく悪いもの	4
他人に著しく迷惑をかけたもの	4
本人の不注意により道具を破損したもの	4
本人の不注意により負傷したもの	8
本人の不注意により他人を負傷させたもの	12

ホ) 作業時間 (減点12点)

12時間以内……………減点0点
1時間を超えた場合、超過5分につき…………減点1点
(5分未満は5分とする)

4. 採点用紙

試験に使用する採点用紙は、次のとおりとする。

- (1) 施工図採点用紙……………様式1

図表-17 鉄筋コースの評価表・採点基準・配点

実施年月日 採点者 氏名 印		居住システム系・建築科（左官コース）		実技採点用紙	
施工法採点表					
採用区分		評 価			
a. 混合石膏 プaster 仕上げ	墨打ち ちり塗り きりつけ かど塗り 中塗り 上塗り 合計				
B. ジュラク 仕上げ	墨打ち ちり塗り きりつけ かど塗り 中塗り 上塗り 合計				
C. 人造石 洗い出し 仕上げ	墨打ち 定木ばり 塗りつけ かど計り ふせ込み 洗い出し 合計				
(a b c) 3					

実施年月日 採点者 氏名 印		居住システム系・建築科（左官コース）		実技採点用紙	
施工法採点表					
採用区分		評 価			
寸 法 - 1 2 3 4 5	配点				
角 度 - a b c d					
平 面 度 - あ い					

実施年月日 採点者 氏名 印		居住システム系・建築科（左官コース）		実技採点用紙	
実技得点・合否表					
受験番号・氏名	評 価				
採用区分					
(A) 得点 施工法 正確さ 外観 (小計)					
(B) 減点 作業態度 不良施工法 試験時間 (小計)					
得点 (A)-(B)					
合 否					

図表-18 左官コースの評価表

1. 使用工具

品名	寸法又は規格	数量	備考
れんがごて		1	
仕上ごて	210mm～260mm	1	
荒ごて	255mm～300mm	1	
中塗りごて	215mm～255mm	1	
隅引きごて	150mm	1	切り付け用
角ごてまたはなぜごて	210mm～300mm	1	
木ごて	180mm～270mm	1	
四半ごて	105mm～120mm	1	
つまみ両引き	3mm	1	
人造ごて	195mm	1	
墨つば、墨さし		1	
さしがね		1	
折尺またはスケール		1	
バケツ		1	
ちりぼうき		1	
水ばけ		1	
こて板		1	
鉛筆、消ゴム		必要数	
養生用紙		1	
ビニールごて	240mm	1	繊維壁用
ちり塗りごて		1	

2. 採点の方法

採点の方法は得点法と減点法を併用することとし、採点に当たっては、まず得点法による得点を決定し、次に減点法による減点を決定し、得点から減点を差し引いて、当該受験者の得点を決定する。

なお、得点がマイナス点となる場合は、0点として処理する。

3. 採点基準

採点方法は、「秀、優、良、可、不可」の段階の評価判定（以下5段階の判定という）を行うもの、および計測により採点を行うものとの2種類である。

1) 得点法による区分採点基準

A) 施工法

採点区分	秀	優	良	可	不可
墨打ち	5	4	3	1	0
塗り付け	5	4	3	1	0
きりつけ	5	4	3	1	0
中塗り	5	4	3	1	0
ふせ込み	5	4	3	1	0
ちり塗り	10	8	6	3	0
上塗り	10	8	6	3	0
洗い出し	10	8	6	3	0
かど測り	20	15	10	5	0

B) 角度

区分	ずれ	得点
角度 a～d	1mm以内のもの	a, b 3点 c, d 3点

C) 平面度

区分	ずれ	得点
平面度 あ～い	1mm以内のもの	各々 3点

D) 外観

評価	秀	優	良	可	不可
得点	15	12	8	4	0

E) 得点法による採点基準

区分	配点	備考
a.混合石膏 プaster 仕上げ	墨打ち ちり塗り きりつけ かど測り 中塗り 上塗り	試験中に採点する。 (中途採点) 5段階の判定
b.ジュラク 仕上げ	墨打ち ちり塗り きりつけ かど測り 中塗り 上塗り	
c.人造石 洗い出し 仕上げ	墨打ち 定木ばり 塗りつけ かど測り ふせ込み 洗い出し	
(a+b+c)/3	小計	
寸法	1 2 3 4 5	試験が終了した後、採点する。 (結果採点) 計測採点
角度	a b c d	
平面度	あ い	
	小計	
外観		
計		

2) 減点法による区分採点基準

「作業態度」「不良施工法」「試験時間」については、減点法に換算する。

A) 作業態度

採点基準	減点
自分がけがをしたり、または他人にけがをさせた	10
塗壁材料の取扱が悪く、著しく周囲を汚した	10
作業中、他の受験者に迷惑をかけた	10
こて等の工具の整理整頓及び手入れの著しく悪いもの	10
指定以外の工具を使用したもの	10
定木を常に清潔にして使用しなかったもの	10

B) 不良施工法

採点基準	減点
施工法の採点に属さない事項で塗壁のはがれ、きれつ等の故障の原因となるような悪い作業をしたもの	1件につき 10点

C) 試験時間

採点基準	減点
試験日の各々に設定した標準時間を超過した場合	5分ごとに 1点

図表-19 左官コースの採点基準・配点

(4) 総合評価

訓練生の総合評価に一例を図表-20に示す。

各訓練生の評価				
				担当者名
訓練生氏名	知識・理解力・態度	実習での技能正確度	総合的な応用・自主性	10点満点
1	理解力にやや難有り 受講態度 普通	時間内に作業がなかなか進まない 寸法, 計算, 測定正確さがほしい	今少し自主が有ればと思う 積極さを持って欲しい	7
2	理解力は有ると思う 態度 普通	作業態度にムラが見られる が技能力はある 正確度は普通	自分の興味有ることには積極的に取り組む 応用力普通, 自主性有り	8
3	理解するのに時間がかかる 態度は普通	測定, 計算に違和感が見られることがある 正確度にやや欠ける点があるがやり遂げる事は良い	自主性, 応用力普通	7.5
4	知識, 理解力は有り 態度はよい	技能力は有る 正確さ普通 寸法測定などで違和感がある	自主性有り, 応用度普通 積極性有り	8.5
5	予備知識, 理解力に欠ける 態度普通, 最近良くなってきた	理解できないためか作業時間が遅くムダが多かったが少し良くなってきた 正確度に欠ける点有り	自主性に乏しい感が有ったが積極性が出てきた様だ 続いて欲しい	7
6	知識, 理解力は良いと思う 態度 良い	技能力, 正確度良い	総合的に良いと思う	9
7	知識, 理解力有り 態度 良い	正確度は良いが, 実習測定作業中まま無駄が見られること有り	自主性, 応用力多いに有り 真面目である	8.5
8	知識, 理解力普通 態度 良い	寸法計算測定等時間がかかるが正確な作業である 技能力普通	自主性, 応用力普通 おとなしい性格と思う 作業態度は非常に良い	8
9	理解力は有るが早のみ込みがまま見られる 態度 普通	寸法測定計算等能力は有るが正確度にやや欠ける点がある 最近非常に良くなってきた	自主性, 応用度多いに有り 理解できた事には多いに積極性を出す 性格は明朗である	7.5
10	知識, 理解力共に有り 態度 良い	技能力有り正確度普通 何事にもソツが無いが作業課程での無駄がまま見られる	総合的な理解力は有るが自主性, 応用度普通	8.5
11	理解力は有ると思うが, のみ込むまでに時間を取られる 態度 普通	出席が少ないので良く分からないが, 技能力は普通に有ると思う	判断は出来ないが, 自主性, 応用度共に普通に有ると思う	7
12	知識, 理解力共に抜群 受講態度も良い	技能力, 正確度非常に良い ほとんどミスが見られない	自主性, 応用性多いに有り 総合的にクラスでトップ	9.5

図表-20 訓練生の総合評価 (一例)

第2節 熊本職業訓練短期大学校 今後の課題……………校長 石原伸興

熊本職業訓練短期大学校は、認定短大校の中でも設立時期が昭和54年（1979）と最も早く、他の企業内の認定短大校と異なり、職業訓練法人である熊本市職業訓練センターに所属し、各企業が週2、3回、3年間登校させる教育訓練形態をとっており、企業と短大が協力して運営するという他に例を見ないユニークな方式をとっている。

企業への就職が入校の前提条件となるため、入学生の変動は企業側と短大校側の双方の要因の影響を受けることとなる。短大校は事業主にとっては、従業員の資質向上のための、また、入校生にとってはそれぞれの事業所で働きながら職場に生かせる職業訓練を受ける重要な機会を担っている。

熊本市職業訓練施設活性化委員会の答申を受け、関連事業団体・組合との意見交換を踏まえ、地域ニーズに根ざした職業訓練を展開するために、短大校が掲げる今後の教育方針、また、訓練方法およびカリキュラムの改善項目を以下のようにすべく、準備検討中である。

1. 教育方針

(1) 有能な技能技術者（テクニシャン・エンジニア）の育成

- ・企業主、顧客から信頼される有能な技能技術者をめざす。
- ・将来にわたって、業務遂行に必要な資格・免許を取得していく基礎専門学力と心構えを培う。

(2) 良識ある人材の育成

- ・企業、顧客から信頼される社会人をめざす。

2. 教育方針に基づく今後の改善策

(1) 社会人としての基本的マナーの涵養

- ① 校内は仕事場であるとの考え方の再確認
指導者間の指導に際しての共通認識の徹底、具体的ルールの明示、学生への周知徹底と指導者全員による指導
- ② 環境整備
受講生の休息室、喫煙コーナーを設けるなどの施設の整備

(2) 訓練方法の改善

- ① 既存履修訓練科目の改善
在来工法、プレハブ工法、ツーバイフォー工法を意識したカリキュラムの設定およびCAD等、コンピュータ応用技術科目、教育科目の導入
- ② 教育訓練の仕方の改善
学科と実技の関連性をもたせる教材・教具の開発、およびものづくり目標の設定による受講生の動機づけ、意欲の喚起
- ③ 建て売り住宅の建設
企画・設計・施工・販売までの一連の建築行為を学ぶための建て売り住宅の建設を実習課題として取り入れる

④ 実習方法の改善

③を展開するために、技能祭等における出展品の製作、技能オリンピックへの参加などを通しての公園の休憩室のように役立つ実習物の製作、必要な技能、技術の習得および実機モデルでの構造・環境実験の展開

⑤ 資格取得向上

在学中の資格習得（測量士補，土地家屋調査士など）に向け配慮したカリキュラムの設定

⑥ 訓練期間改善

訓練期間の3年制から2年制課程への移行及び2ヵ月間にわたる集中訓練の展開

⑦ カリキュラムの見直し

建築科，各学年毎の仕上がり像，科目間の連携と配列の仕方，③～⑥の実施に伴うカリキュラム全体の見直し

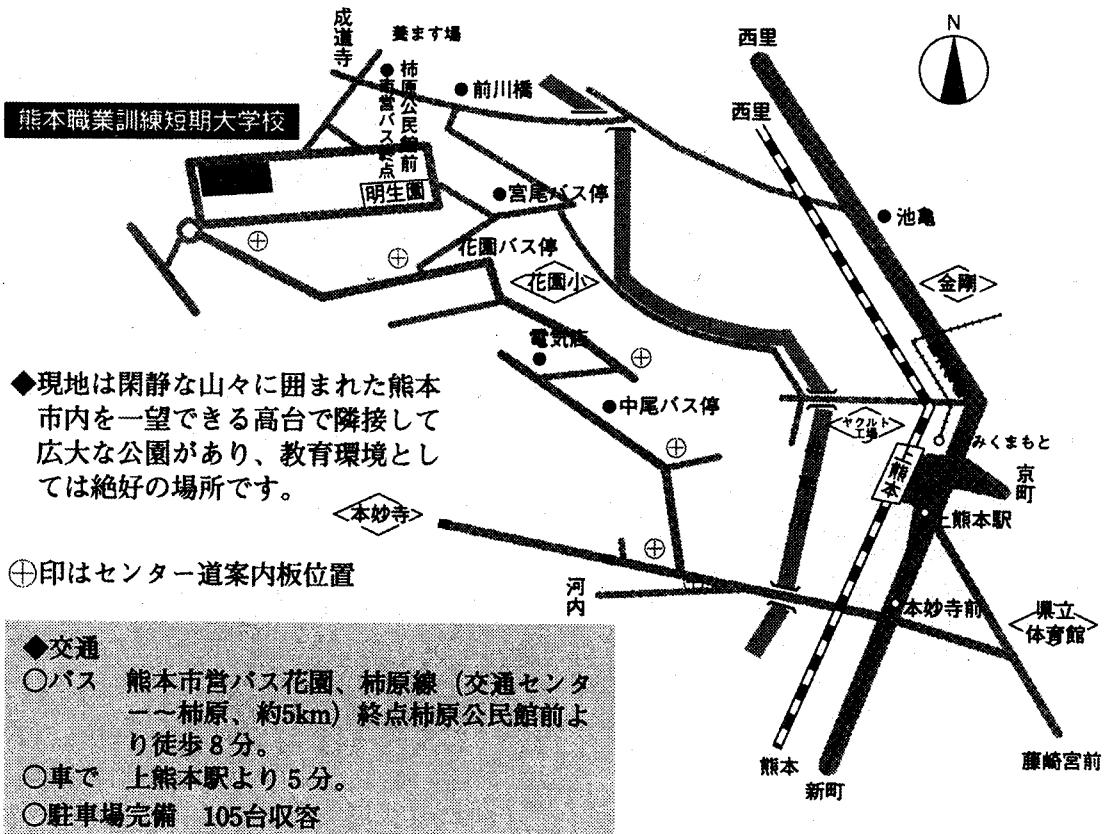
熊本地域の建設業をみると，建設業従事者の年間生産性は全国平均の80%と低水準にあり，かつ中小企業が多い傾向にあるといわれる。

熊本市の中小建設業の進むべき方向が在来工法に加え，プレハブ工法と捉えたとき，短大校が中小建設業に対する技術的な援助としては

- ① 実機規模における，建築材料部材の強度，断熱材などの試験測定センターの役割を担い，
- ② 新建材，各種建築材料のデータベースを構築する，

ことなどが模索されている。

熊本職業訓練短期大学校 案内図



熊本職業訓練短期大学校

〒860 熊本市花園7丁目19番10号

☎(096)325-6947